

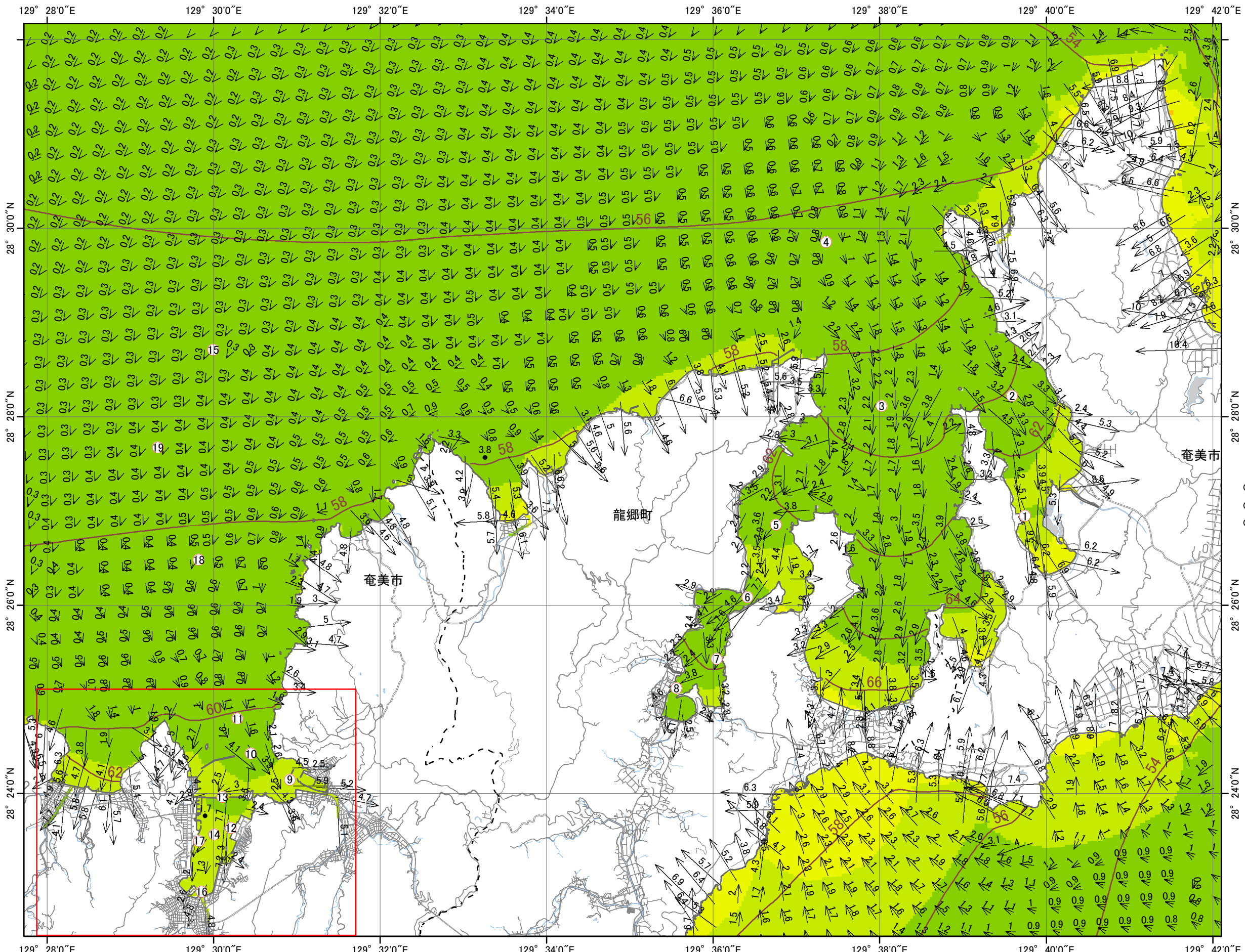
奄美大島北部 津波防災情報図 (進入図)

(南海トラフ巨大地震ケース⑪)

計算条件： 最高水面（零位）
 隆起量： 平均 -0.04m
 Zo： 1.15m
 備考： 本図のシミュレーション結果は、震源の位置、規模、細かな地形などの影響により、実際のものとは異なることがある。

座標系：メルカトル図法
 測地系：世界測地系 (WGS84)

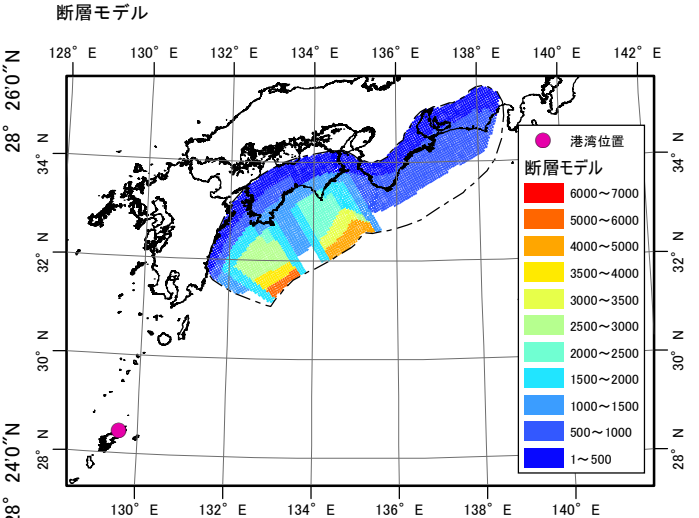
赤枠内には、さらに詳細な港湾の津波防災情報図があります。



凡例

- 水位上昇(+10cm)となる等時線[分]
- 最大水位上昇
 - 5~最大5.7m
 - 3~5m
 - 2~3m
 - 0.5~2m
 - 0.5未満
- 終時変化図出力点 (図上の位置における津波の挙動を別図の終時変化図で示す。)
- 進入時最大流 [knot]
 - 6 knot
 - 4 knot
 - 2 knot

- 津波の到達時間は、水位が最高水面から10cm変動した時点を出している。
- 防護施設は、津波の越流と同時に破壊されるものとして計算している。
- 流向変化が激しく、進入・引潮等の判別が困難な海域では、流速のみを表示した。

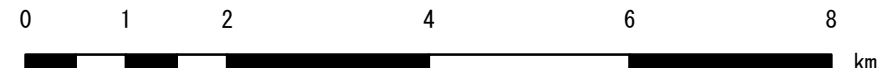


ケース⑪「室戸岬沖と日向灘に『大すべり域+超大すべり域』」

断層面積 S (km ²)	140,000
地震モーメント Mo (N·m)	6.6 × 10 ²²
平均すべり量 D (m)	11.2
モーメントマグニチュード Mw	9.1

本断層モデルは、内閣府の「南海トラフの巨大地震モデル検討会（第二次報告）（平成24年8月29日発表）」により公表されたものである。使用した断層モデルは、内閣府より公表された11ケースの中から、本図の区域において、浸水面積が最大となるモデルを選定した。

○ 本図の作成にあたっては、「津波解析支援GISシステム (ArcGIS 10 対応)」を使用した。
 ○ 本図の作成にあたっては、以下の資料を使用した。
 ・海上保安庁が保有する水深データ
 ・基礎地図情報5mメッシュ (標高)・10mメッシュ (標高)、及び基礎地図情報 (国土地理院発行 国土地理院長承認 承認番号 平31情使、第30号 平成31年4月5日)



作成機関：海上保安庁
 防災情報図作成年月：令和元年6月 (初版)
 地形データ作成年月：平成31年3月 (初版)